

令和5年度 漁場再生ワーキンググループの活動報告

第3回の実施概要

【日時】 2023.10.18 16:30~18:00 (於: 国際サンゴ礁・研究モニタリングセンター)

【出席者】 環境省石垣自然保護事務所 (山本、近藤、江川、関森)

八重山漁業協同組合 サンゴ種苗生産部会 (砂川政彦、小林)

(国研)水産研究・教育機構 水産技術研究所 (鈴木、名波)

沖縄県水産海洋技術センター 石垣支所 (服部)

(一財)沖縄県環境科学センター (岡田、佐川)

※敬称略

【議論の概要】

・魚類とサンゴそれぞれの種類との関係性において、どのような効果(稚魚の住み場所、成魚の餌場、成魚のねぐらなど)が期待されるのか、議論を行って整理した。

好ましい漁場のモデル

<増やしたいサンゴ+魚種ごとの期待される効果>

魚種			
サンゴのタイプ	ナミハタ (サッコミーバイ)	スジアラ (アガジン)	ナンヨウブダイ (ゲンナー)
ブラシ状	稚魚の住み場所	稚魚・成魚の 住み場所	稚魚の住み場所
枝状(鹿角状)	成魚の住み場所	成魚のエサ場? (ポテンシャル)	成魚のねぐら
コリンボース状、 テーブル状 (身を隠せるサイズのサンゴ)		成魚のねぐら	

住み場所: ある魚があるタイプのサンゴの周りを好んで泳いでいる場所
(積極的にねぐらやエサ場を利用しているかは分からない)

ねぐら: 夜に、ある魚があるタイプのサンゴにかくれて寝ている場所

エサ場: エサ生物となる小魚などが多いサンゴのタイプが成育し、エサ場として期待できる場所